

水と環境

これでいいのか欧州主導で進められるMBRの国際標準化

グローバルウォータージャパン代表 吉村 和就

4、MBR国際標準化作業の意義とその内容

EUのフレームワークには、「膜処理は最先端の技術であり、しかも世界市場にむけて開発されなければならない最高利用技術である、従って国際標準化は当然」と述べられている。

また標準化の内容については、仮発表であるが、ハード面(モジュールの設計基準、取り替え基準、構造基準、受け入れ基準、都市での設備モデル、分散型設備モデル)だけではなく、ソフト面(ライフサイクルの考え方、運転方法、ファ

欧州主導で進められるMBRの国際標準化作業、日本はどうしたらいいのか。

してゐるであろう。従ってEUが総力を挙げて取り組んでくることを覚悟しなければならぬ。

日本発の国際標準に際しては、国際規格(ISO)に上程

に限らず、多くの国際標準化には積極的に関与してこなかった、国レベルでも民間企業レベルでも。しかし一度決められた国際標準(規格)を最高に守るのが日本の常であった。(ISO 014001認証数、日本が世界一)

一例だが、筆者はISO/TC224「上下水道サービス国際規格」のWG3(上水道)部会長として、第一回のバリ会議(2002年)から第5回ベルリン会議まで参加し、日本の意見を述べたが、いずれの国際会議でも、開催国政府の支援があり、立派な会議場が用意されていた。

本年11月にISO/TC224最後の総会が日本で開催されることになったが、日本政府の積極的な関

与はなく、東京都の好意で「東京都水道局研修・開発センター」で開催される運びとなっている。

また政府だけの責任ではない、民間会社の経営トップの国際規格化への理解の無さも挙げられる。社内でISOや、その他の標準規格策定に従事する人間への評価が高くないことも問題である。

話を膜に戻すと日本の膜処理の優秀さは世界でも評価され、既に多くの国々で

日本発の国際標準示せ 国、関連業界の総力あげ

対策を考える前に、まず日本は欧州の戦略を学ぶ必要がある。

EU委員会は、EU市場を25カ国向けにまず欧州規格(CEN/ISO)を制定、次にグローバル戦略として国際規格(ISO)に上程

これらの場でも、自社の製品の優秀さの売り込みばかりでなく、日本発の国際標準化案の提出も望まれている。

6、業界あげての努力を基本的には日本は今まで膜

日本発のMBR技術が世界に普及し水問題が解決され、感謝とともに最後は我々の手に、その恩恵もたらされることを期待している。

日本発のMBR技術が世界に普及し水問題が解決され、感謝とともに最後は我々の手に、その恩恵もたらされることを期待している。

日本発のMBR技術が世界に普及し水問題が解決され、感謝とともに最後は我々の手に、その恩恵もたらされることを期待している。



ISO/TC224・ベルリン総会で意見を述べる筆者

膜に関する国際会議・展示会 (2007年)

3月12-13日 18-21日	IWAアドバンスド・サニテーション会議 AWWA膜国際会議	アーヘン/ドイツ タンパ/米国
5月15-17日	IWA第4回膜国際会議	ハロゲート/ドイツ
6月4-7日 4-6日	IWA先端水処理会議 第二回IWA若手向け膜会議	シンガポール ベルリン/ドイツ
7月23-27日	AMTA膜会議・展示会 未来は膜に賭けろ	ラスベガス/米国
10月30-31日	第7回アーヘン膜会議	アーヘン/ドイツ
11月5-9日	IMSTEC2007年 第6回国際膜技術会議	シドニー/豪州